

B A 液剤の低濃度によるハウスみかんの発芽及び着花促進の効果

[要約]

ハウスみかんの加温後の発芽及び着花促進剤として、B A 液剤の300～400倍液を散布すると効果的である。

長崎県果樹試験場・常緑果樹科

専門

生理

対象

果樹類

分類

普及

平成4年度果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

ハウスみかんの加温時の発芽促進剤としてのB A 液剤は、すでに100～200倍での登録がなされ、広く利用されているが、未発達の花蕾まで出蕾させる危険性があるので、300～400倍の低濃度での効果を検討した。

[成果の内容・特徴]

- ①発芽率は無処理に比べB A 液剤散布区が高い。
- ②着果率はB A 液剤散布区が低い。
- ③果径指数や果皮の粗滑、浮皮程度には処理による差がない。また、奇形果は発生しない。
- ④他の品質への影響はコンテナ植え樹のために明らかにできなかった。

[成果の活用面・留意点]

- ①結果母枝の充実が不十分と思われる時は加温時期やB A 液剤散布を再検討する。
- ②結果母枝の充実が充分と思われる時は、出蕾を補助する程度の方で、より低濃度の利用を行う。

[具体的データ]

第1表 BA液剤散布と発芽率及び着花数

処 理	発芽率 (%)	10節当たり	
		有葉花数	直花数
300倍	92.1	0.3	24.8
400倍	87.3	0.7	25.2
無処理	55.7	0.1	24.1

調査日 1992年 1月23日

第2表 BA液剤散布と生理落果後の着果率

処 理	着花数	着果数	着果率 [*] (%)
300倍	2.360	45	1.9
400倍	1.645	21	1.3
無処理	2.306	92	4.0

^{*} 着果数/着花数×100 調査日 1992年 3月 7日

第3表 BA液剤散布と果実品質

処 理	1果重 (g)	果径 指数	果肉率 (%)	着色 歩合	果皮 ² 粗滑	浮皮 ³ 程度	糖 度	酸含量 (g/100ml)
300倍	68.1	149.2	79.9	6.6	1.2	1.2	12.2	0.85
400倍	68.9	148.3	79.9	3.0	1.1	1.1	9.6	0.70
無処理	73.9	147.3	77.3	3.5	1.2	2.0	8.5	0.72

² 果皮粗滑 (滑1・中2・粗3)

³ 浮皮程度 (無0・軽1・中2・甚3)

調査日 1992年 9月 7日

[その他]

研究課題名：植物調節剤の実用化

予算区分：委託試験

研究期間：平成4年度（昭和52年～）

研究担当者：中倉建二郎

既発表論文等：長崎県果樹試験場業務報告，平成4年度

残された問題点：樹勢程度や加温開始時期における濃度の検討が必要。